

やまぐち自然共生ニュース

やまぐち自然共生ネットワークは、県内で自然環境の保全活動や自然とのふれあい活動などを行っているグループや個人のネットワークです。

私たちは自然環境との共生によって、すばらしい自然環境を次世代に伝えていきます。

アサギマダラおいでませ作戦

今年、(財)山口県ひとづくり財団の支援を得て、本山小学校の緑の少年隊が地域住民のサポーターと共に“アサギマダラおいでませ作戦”を実施した。この作戦は山陽小野田市の竜王山に自生するヒヨドリバナの種子で育苗し、それを竜王山に戻し、アサギマダラを更に呼び込むことにある。

目的は次の3つにある。1. 子供たちが自然共生活動を通じて自然体験ができるフィールドを創ること。2. アサギマダラと触れ合って人々に癒しのフィールドを提供すること。3. アサギマダラで竜王山を発信すること。

留意した点は、1. 竜王山に自生している植物にすること。2. 他の植物の生態に影響を与えないこと。(のり面の芝地を利用) 3. 場所の選定は安全にふれあえ、管理が容易なこと。

作戦の経緯は3月23日：種まき。6月28日：植え付け(3,000本)。10月6日：初飛来。10月19日：飛来数がピーク(200頭以上)。11月14日：最後の1頭飛来。エピソードとしては竜王山でマーキングされた蝶が10日後、沖縄で再捕獲されたことである。

作戦の結果は目的に対して、1. 地元の2つの小学校や保育園を含む500人以上の子供たちがアサギマダラを含む自然体験を行った。2. デイサービスのお年寄りや多くの市民がふれあえた。3. メディアからの発信効果で県内外から見物客が訪れ名所になった。

新聞にもこの作戦は成功と報道され予想以上の成果が得られたのではなかろうか。

今後の活動について述べたい。

竜王山は海岸性と山地の植物が混在し、四季折々豊かな植物相が見られるところである。日本でも有数のヒメボタルの生息地、渡り鳥や多くのチョウも楽しめるその自然の豊かさは特筆に価する。私たちは子供たちや市民と一緒に作戦の継続と他の自然の宝物を保全しつつ更に磨いて行きたい。



会員団体の紹介

特定非営利活動法人たすけあいねっとわーく

(所在地：周南市、活動場所：山口県全域)

【生ごみは宝だ！】

資源の殆どを輸入に頼っている日本。もし資源を作ることができれば・・・。
出せばごみ、リサイクルをすれば資源になるものの中に、家庭から毎日発生する生ごみがあります。もしこの生ごみが資源(有機肥料)に変わるとしたら、それはとても有益なことであり、日本人が昔から持ち続けている「もったいない」の心が活かされるのではないのでしょうか。たすけあいねっとわーくは「もったいない、生ごみは宝だ！」の心で活動しているNPO法人です。

現在、山口県では家庭から出される生ごみの処理だけで、年間約40億円もの費用がかかります。この費用が福祉や教育、県民の健康づくりに活かされれば素晴らしいことだと思いませんか。そのためには県民の生ごみへの意識を変えなければなりません。

生ごみが、ごみではなく、宝だと思えるようになると環境に対する意識も飛躍的に向上します。

たすけあいねっとわーくはダンボールコンポストを使う無料の「生ごみリサイクル講習会」を県内全域で開催することで、県民の意識向上に寄与しています。2010年度は200回(約3,000人の受講者)の講習会を実現させ、リピーターも増えつつあります。

また、生ごみをリサイクルさせることで焼却時に出る二酸化炭素(温室効果ガス)の削減にもなり、地球温暖化防止にも役立っています。



【落葉を拾い資源作り】

落葉も現状は業者が収集し、燃やしています。これを腐葉土にすることで資源に変えることができます。

2009年度から市民の方や高校との協働で、公園の落葉を腐葉土ボックスに収集し、腐葉土作りにも挑戦してきました。2011年の山口国体に合わせ、この腐葉土を使った「花いっぱい運動」への参加や、生ごみリサイクルの基材として使っていただきます。



【有機農業で野菜作りに挑戦】

ダンボールコンポストで出来た有機肥料を耕作放棄地などに施肥し、無農薬・無化学肥料の野菜作りに挑戦しています。体に悪い農薬や化学肥料ではなく、昔から日本の農業の中心であった自然に近い農法です。

食の安心・安全は生ごみリサイクルから、食料自給率の向上は地産地消、自給自足からをモットーに循環型社会の形成を目指しています。

NPO法人たすけあいねっとわーく 煙草谷 龍二
ホームページ <http://www.tasukeai.npo-jp.net/fksp/>

出会いの森ファンクラブ

(所在地：下関市、活動場所：下関市大字阿内薫木)

私たちが活動場所としている「出会いの森」は、戦後まもなく下関で最初の開拓団(7~8世帯)により、田んぼ、畑を耕作していましたが、10年位で他の場所へ移転され、以降足の踏み入れも出来ないような状態でした。

平成13年7月、森の管理もかねて、所有者の好意により、無償でお借りすることとなりました。(約1.2㌔)

「出会いの森」として、多くの人たちの智恵と力で、守り開いてきました。ようやくこの4~5年里山として、多くの人たちを迎え入れられるようになりました。

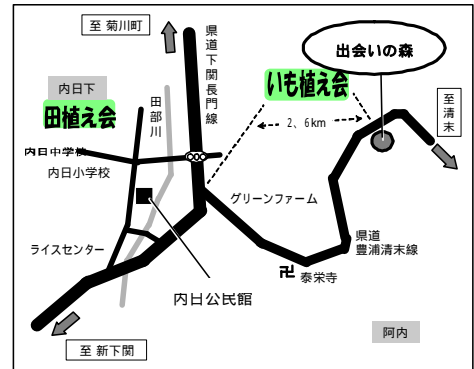
関わってみたい人なら、誰でも一緒に創っていきける自然の中の自由空間!それが「出会いの森」の魅力であり、会員皆の誇りです。

そして「出会いの森」は、健常者、障害者を問わず、子どもからお年寄りまで、全ての人たちと共有できる場所として、また、すばらしい出会いと幸が訪れる所として、活動を推進しています。



主な活動プランは、四季を通じて自然とのふれあいを大切に、森に入って積極的に見、聞、触、嗅いだり、いろいろな体験、実感することです。

子どもたちの年3回による「森の探検隊」をメインに、基地づくり、植物、昆虫観察などを行っています。また、田植え(赤・香米)、稲刈り、いも植え、いも掘り、シイタケの菌打ちなどを実施し、田畑でのものづくりに挑戦しています。



森は生きています。森の中には多くの生き物たちが生活しています。
私たちは、その森から多くのことを学び、夢と希望を得ることができます。
すばらしい出会いと人々の幸せを願って、ここに「出会いの森」憲章をかかげます。

私たちは、森をたいせつにします。
私たちは、美しい心をたいせつにします。
私たちは、森からの恵みをたいせつにします。
私たちは、森からの感動や喜びをわかちあいます。
私たちは、森を通して多くの人たちとの出会いをたいせつにします。

(2002年4月 出会いの森オープン)

《出会いの森憲章》

現在、森には樹木約40種、野草15種、野鳥20種、昆虫85種が確認されている。

[今年度会員数 個人 15人 家族 10家族 賛助 7団体]

[年会費 個人会員 1千円 家族会員 2千円 賛助会員 一口 1万円]

出会いの森ファンクラブ 代表 川村 一昭

情報コーナー

第7回 リレーミーティング in 萩

10月23日(土)~24日(日)、1泊2日の日程で「リレーミーティング in 萩」が開催されました。萩と言えば“江戸時代の町並みが残る歴史の町”というイメージがありますが、城下町故に残された貴重な自然や笠山・明神池・風穴など世界でも例がない特殊な植生などがあり、萩市樹木医の草野さんの詳しい解説を聞き、参加者一同感動していました。また、リレーミーティングならではの夜の交流会では、歌、楽器演奏などもあり大変盛り上がり、交流を深めることができました。



2日目はあいにくの雨模様となり、楽しみにしていた極相林“指月山”に登ることはできませんでしたが、菊ヶ浜を日本一美しくする会により美しく保たれた(ホントにきれいです)菊ヶ浜でゴミ拾いをしたのち、NPO 萩観光ガイド協会の皆さんによる懇切なガイドのもと新たな発見などをしながら市内を散策しました。萩博物館では NPO まちじゅう博物館のおいしい昼食を食べたのち、椋木、堀岡学芸員による軽快なトークの中、地球最強のミステリアーアニマル「クマムシ」の採取、顕微鏡観察を行いました。普段顕微鏡を覗くことなどはめったにないため、参加者一同大変真剣にかつ楽しく取り組んでいました。

県下をリレーして開催しているリレーミーティング。開催地萩の自然のすばらしさを深く知ること、この豊かな自然を次世代に引き継がなければと改めて感じました。

表彰記念樹を贈呈しました。

11月6日(土)岩国市天尾の錦川清流線北河内駅構内において、平成22年度やまぐち自然共生ネットワーク会長表彰を受賞された塚本司郎さんに、開村会長から記念樹(シダレモモ)と記念プレートを贈呈しました。

北河内駅構内は、塚本さんが立ち上げた「錦川の自然を守る会」によりきれいに整備されており、10月には岩日線開業50周年記念として、転轍機2台を観光オブジェとして花壇の1角に移設されたとのこと。4月には、3年前から保全に努められている二輪草群生地「二輪草まつり」が開催されます。



シダレモモの前で
(後方に見えるのが転轍機)

小笠原 治理事のご冥福をお祈りします。

10月12日(火)、やまぐち自然共生ネットワーク設立時に副会長としてご尽力された、宇部・小野田地域の小笠原 治理事が亡くなりました。

生前のご厚情に感謝するとともに安らかなご冥福をお祈りします。

やまぐち自然共生ネットワークでは、みなさまからの情報をお待ちしています。

活動報告、活動予定等がありましたら、下記までご連絡ください。

【事務局】〒745-0816 周南市遠石2丁目6-22-302 岡谷政宏(0834-21-5822)

【広報担当】〒753-8501 山口市滝町1-1 山口県自然保護課 内田 修(083-933-3060)

E-mail yama-kyou@gotjp.com URL <http://www.gotjp.com/yama-kyou/>